

文化財多言語化研究報告 2

目次
例言

I 論考	[1] 異言語間翻訳を超越する ——科学技術社会論の視点から見る文化財多言語化 呉修喆……………6
	[2] 文化財を「翻訳」する(二) ——飛鳥資料館第二展示室パネルテキスト訳文 のブラッシュアップ 呉修喆……………20
	[3] 韓国における文化財用語醇化に関する断想 ——「질그릇(ジルグルッ)」の迷走を通じて— 扈素妍……………27
	[4] 初めて校閲者として経験したこと 魏佳瑤……………47

II 事業報告	[5] 平城宮跡の文化財多言語展開 ——文化庁文化財多言語解説整備事業の報告を中心に— 高田祐一……………50
---------	---

III 実験	[6] 発掘調査報告書から多言語対応収蔵品データベースへ Yanase Peter ……62
--------	---

IV 資料	[7] 2021年度日英対訳集 Yanase Peter ……68
	[8] 文化財関連用語日中対訳集 呉修喆……………77
	[9] 文化財関連用語日韓対訳集 扈素妍……………92
	[10] 多言語に関するガイドラインリスト(関係法令・ガイドライン等) 高田祐一……………98